

い せ もの が た り え ま き
伊勢物語絵巻

二巻 絹本著色 縦 26.5 cm

落款「守親筆」 印章「幽知」（朱文方印）

江戸時代 松井文庫所蔵

『伊勢物語』は、『源氏物語』と同様に、古くから絵画の主題として好まれた物語です。

この絵巻は『伊勢物語』の各場面を上下2巻にわたって描いたもので、上巻に23場面、下巻に22場面（あわせて45）が描かれています。

【上巻】
右／第八段 東下り
左／第九段 唐衣



【上巻】
右／第二三段 筒井筒
左／第二七段 水口に

この絵巻の作者について、巻末に「守親筆」の落款（^{らっかん}絵師のサイン）と「幽知」の朱印が押されています。守親または幽知という人物について『^{こがびこう}古画備考』という本（絵師の人名辞典）をみると、

松原幽知守行…狩野探幽の門人で見事な絵らしい。

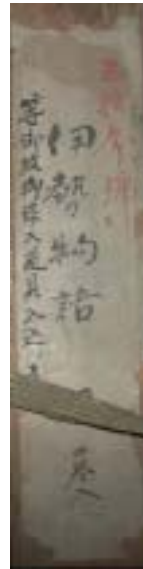
松原探梁守親…仙台藩に仕え、法橋になる。

という記載があり、該当者らしき絵師が二人います。しかし、この二人が同一人物かどうか、どんな絵師だったかどうか、それ以上詳しいことはわかりません。いず

れにしても、彩色のきわめて緻密な、美しい作品です。

さて、この絵巻を納める箱には右のように書かれています。これにより、「文政 10 年 (1827) 梅珠院様の遺品として拝領したこと」、「笹御紋御嫁入道具に付属する品であること」などがわかります。

「梅珠院様」とは、熊本藩主細川家 10 代目^{なりしげ}齊茲 (1759～1835) の娘で、幼くして亡くなったコウ姫 (1823～26) のことで、その遺品として松井家に伝わったことがわかります。



「文政十年九月二日
梅珠院様御遺物拝領
伊勢物語 守親筆
(貼紙)
『五拾参號
伊勢物語一 二卷入
笹御紋御嫁入道具入込ノモノ』
」

細川家に伝わる文物を保存する永青文庫には、このコウ姫の肖像画が残っており、あどけない中にも賢そうな顔をした女の子だったことがうかがえます。

藩主の娘にふさわしい、教養あふれる美しい娘に育つことを願って、こうした絵巻が準備されたのでしょう。

また、「笹御紋」とは、松井家の家紋である三ツ笹紋のことで、実際に松井文庫には、三ツ笹紋の入った婚礼道具が一揃現存しています(下図)。これは残念ながら、どなたのご所用かはわかりませんが、この絵巻と関係するものかもしれません。

この婚礼道具は、棚類・貝桶・化粧道具箱・机・硯箱など51種が残っており、これだけの数がまとまって残っているのは、たいへん珍しいことです。

